



2025

OUS TALKS

Designing the Future
Society of Our Lives

募集要項

2025 OUS TALKS 募集要項

1. 開催目的

英語を話すというスキル向上を目指すだけでなく、自己の考え・主張を整理し、英語で他者に伝えることができるようになることを目的とする。また、国際的な集まりにおいて、英語を話すことへの抵抗を軽減させることを目指す。

2. 主催

岡山理科大学 グローバルセンター

3. 実施日

2025年10月22日（水）5限 16:45～18:15

4. 会場

- 岡山キャンパス A1号館 1階 プレゼンテーションルーム
 - 今治キャンパス A3大講義棟
- ※両会場を Google Meet で接続して同時開催

5. 応募対象者

岡山理科大学に在籍する学部生・大学院生

6. テーマ

①. テクノロジーを本当に信頼できるのか？

私たちは、ソーシャルメディア、ビデオゲーム、AI などのテクノロジーにこれまでになく依存しています。しかし、その利便性と引き換えに、どんなリスクや課題があるのでしょうか？このテーマでは、「信頼とは何か」「テクノロジーと距離感をどう取るべきか」という視点から自分の考えを掘り下げてください。

例えば、プライバシーの保護、フェイクニュースの拡散、コミュニケーションの変化など、身近な事例から意見を展開すると説得力が増します。

②. 異文化の間で生きる

日本は今、ファッションや音楽、趣味など、さまざまなサブカルチャーを通じて多文化社会へと移行しつつあります。また、海外文化の流入や、自分自身の海外渡航経験などを通じて「異文化に触れたことがある人」も増えています。

このテーマでは、「異文化に触れた経験が自分にどんな影響を与えたか」「文化の違いをどう乗り越えたか」という視点から、スピーチを組み立ててみてください。

アイデンティティの変化、戸惑いや葛藤、価値観の再構築など、具体的な体験を交えて話すと、聞き手に伝わりやすくなります。

③. 過去を振り返り、未来へ進む

私たちは、伝統や習慣などの”過去の価値観”と、科学やテクノロジーに基づく”現代的な合理性”の間で生きています。これらは時に衝突し、時に融合しながら、私たちの思考や行動に影響を与えています。

このテーマでは、「伝統と現代、どちらをより重視すべきか」「両者はどう共存できるか」という視点で、自分の考えを表現してみてください。

自分が受け継いだものと、これからの時代に必要だと感じる価値観をどう結び付けていくのか、といった問いに自分なりの言葉で向き合うことで、深みのあるスピーチになります。

7. 賞品

・図書カード：

上級部門：1位（1名）、2位（1名）、3位（1名）

中級部門：1位（1名）、2位（1名）、3位（1名）

8. 岡山理大グローバル活動認定証：10点

本イベントは岡山理大グローバル活動認定証の対象です。

詳細は以下、または右記QRコードよりご確認ください：

https://www.ous.ac.jp/international/Ridai_Global_Compentence_Certificate/



▲ 岡山理大グローバル活動認定証

9. 応募方法と応募締切

右記QRコードまたは下記URLよりGoogleフォームに必要事項を入力し、応募してください。

<https://forms.gle/UBPf4T6RenrTWH9CA>

応募締切：2025年9月26日（金）



▲ 参加応募 Google Form

10. 原稿提出締切

2025年10月15日（水）

提出先メール：oustalks@ous.ac.jp

※件名に「OUS TALKS 原稿提出」と明記し、本文に氏名・所属を記入のうえ、Word または PDF を添付してください。

《流れ》

Step 1

応募する

締切 9月26日(金)



Step 2

原稿を書く

注) 原稿に対するアドバイスをもらうのは
審査委員以外の人であること。



Step 3

最終原稿を
提出する

締切 10月15日(水)

注)これ以降は原則原稿を修正しないこと。



Step 4

当日

10月22日(水)

11. 審査基準

- 発表時間：3～5分
- その他：
 - 何らかのビジュアルエイド（理解を助けるためのスライド等の視覚資料）を使用すること。
 - 審査はルーブリックを用いて採点。詳細は別添1参照。

12. リハーサル

リハーサルは、イベントの約2週間前、および/または1週間前に予定されています。リハーサルの回数と日程は現在調整中です。詳細は後日改めてお知らせいたします。ご参加いただけるよう、スケジュールの調整をお願いいたします。

13. 審査委員

1. 岡山理科大学 教育推進機構 基盤教育センター 教授 ジェーン・オハロラン
2. 岡山理科大学 理学部 物理学科 山本 薫
3. 岡山理科大学 獣医学部 獣医学科 トビー・カーティス

14. 質問・問い合わせ先

岡山キャンパス C1号館 4階 グローバルセンター

電話：086-256-9814

Email：oustalks@ous.ac.jp

※メール件名：「OUS TALKS について」、本文に氏名・所属と質問内容を明記してください。

15. よくある質問

Q1 コンテストの前にスピーチとビジュアル資料を提出しなければなりませんか？

A1 はい。スピーチとビジュアル資料を、コンテスト開催の1週間前（10月15日）までに、oustalks@ous.ac.jp へメールでお送りください。

Q2 スピーチは暗記しなければなりませんか？

A2 いいえ、スピーチの暗記は必須でも推奨でもありません。出場者の目標は、暗記することではなく、自分の考えを英語で伝えることです。

Q3 スピーチを暗記する必要がないなら、プレゼンテーションの際に原稿を読むことはできますか？

A3 プレゼンテーションでは、できるだけ自然にコミュニケーションを取ってください。原稿をそのまま読むことと、自然に話すことは異なります。プレゼンテーションの内容を忘れてしまったときのために、メモを使用しても構いません。

Q4 プレゼンテーションをビジュアル資料なしで行ってもいいですか？

A4 効果的なプレゼンテーションを行うためには、ビジュアル資料が非常に重要です。ビジュアル資料を準備しておくことを強くお勧めします。

Q5 提出したプレゼンテーションやビジュアル資料の修正は可能ですか？

A5 はい。提出期限である10月15日までは、変更して再提出が可能です。それ以降は変更できません。

Q6 リハーサルはありますか？

A6 OUS TALKSの前に、少なくとも1回リハーサルが行われます。日程については、メールでご連絡いたします。リハーサルでは、以下のような項目を練習してもらいます：

- 立ち位置
- 発声練習
- プレゼンテーションソフトウェアの使用法
- 観客やカメラとの目線の合わせ方

Q7 スケジュール上の都合でリハーサルに参加できない可能性があります。リハーサルに参加できない場合でも、コンテストには参加できますか？

A7 予定されているリハーサル日にご都合が合わない場合は、別日にリハーサルを行います。

Q8 OUS TALKS はオンラインで参加できますか？

A8 残念ながら、オンラインの参加はできません。発表者は、審査員の前で直接プレゼンテーションを行っていただきます。OUS TALKS は、岡山キャンパスと今治キャンパスの2会場で開催され、Google Meetによって接続されます。両会場には、少なくとも1名の審査員がいます。Google Meetを通じて、両キャンパスの審査員が共同で受賞者を決定します。

Q9 友達は OUS TALKS をオンラインで視聴できますか？

A9 OUS TALKS は対面式のイベントです。観客は、岡山キャンパスと今治キャンパスの会場で視聴することができます。

Q10 プレゼンテーションはどのくらいの長さにする必要がありますか？

A10 プレゼンテーションは3~5分程度にしてください。プレゼンテーションの内容と長さは、評価に影響します。

Q11 プレゼンテーションが制限時間を超えた場合、どうなりますか？

A11 プレゼンテーションが5分を超えると、ポイントが減点されます。また、6分を超えた場合は、その時点で発表を終了していただきます。

添付 1：評価ルーブリック（サンプル）

英語スピーチコンテスト評価ルーブリック（合計: 16 点）

1: 十分でない 2: 努力が必要 3: ある程度達成している 4: 十分達成している

評価観点		評価基準の内容（評価レベル 4 にふさわしい模範的なパフォーマンスの記述）	点数（1-4）
1	内容と構成	スピーチには明確な構成（導入・主な内容・結論）があり、アイデアは独創的で興味深く、わかりやすい。視覚資料は内容の理解を助け、話し手の聴衆への伝達を補完する役割を果たしている。	
2	言語運用能力	文法や語彙の使用はおおむね正確で適切である。語彙や表現の多様性を意識した使用が見られる。	
3	発音とイントネーション	スピーチは明瞭でわかりやすく、自然なリズムやイントネーションを意識して話している。声の大きさや話す速さも適切で、抑揚をつけながら聴衆の関心を引いている。	
4	話し方と聴衆への働きかけ	話し手は自信があり表現も豊かで、ジェスチャーや表情も適切に使われている。対面ではアイコンタクトが取れており、オンラインではカメラを見て話すなど聴き手への配慮が感じられる。	
合計		スピーチは魅力的で印象深く、良い印象を残す内容になっている。話し手のテーマに対する情熱や興味を感じられる。	